

2025-26年度 第2650地区スローガン
「未来へつなぐ」

第2650地区 [1961.3.28創立]

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

会長	山田博
副会長	安田志郎
幹事	木原常裕
会報・資料委員長	酒本良司

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第30回(通算3070回)2026年(令和8年)3月29日号

本日の例会(3月29日)
創立65周年記念式典と家族例会
於：ホテルオークラ京都

次回の例会(4月7日)
「お育て」をいただくということ
浄土真宗本願寺派 教恩寺住職
シンガーソングライター やなせなな様

村山陽子様(駒形大重神社宮司)

誕生日祝

田中康正会員(3月25日)山下精久会員(4月4日)

結婚記念日祝

松村實昭会員(3月24日)佐藤佳雄会員(3月26日)
吉村定義会員(3月26日)鈴木勝士会員(3月27日)
涌田義昭会員(3月27日)出川裕一会員(3月28日)
池木啓仁会員(3月29日)清水良彦会員(3月29日)
村島靖一郎会員(4月1日)岡本吉行会員(4月5日)
吉村 始会員(4月5日)

創業記念日祝

松村喜芳会員(3月24日)杉村喜之会員(3月24日)
吉田 暁会員(3月24日)上田麻子会員(4月1日)
鵜山洋子会員(4月1日)酒本良司会員(4月1日)
佐藤佳雄会員(4月1日)下村敏博会員(4月1日)
瀧本栄一会員(4月1日)西川 均会員(4月1日)
西田陽昭会員(4月1日)布施隆教会員(4月1日)
山下精久会員(4月1日)吉村元嗣会員(4月1日)
脇本吉清会員(4月1日)

委員会報告及びその他報告

○葛城・新庄地区情報集会 吉田 暁世話人
3月24日(火)18時よりヴェルデ辻甚で新庄地区
の情報集会を行います。
○趣味の会委員会 川村英亮委員長
第3回趣味の会ゴルフコンペが5月28日(木)万寿
ゴルフクラブにて行われます。

ニコニコ箱

・地区「奉仕フォーラム」にご参加いただき、ありが
うございました。中村鷹治郎様をお迎えて。
山田 博会員
・中村鷹治郎様をお迎えて。 安田志郎会員
・先日、大中公園に植樹した桜が咲き始めています。
中村鷹治郎様をお迎えて。 木原常裕会員
・中村鷹治郎師匠、ようこそ当クラブへ。成駒家!!
辻 修会員
・中村鷹治郎様、日本アカデミー賞おめでとうござい
ます。本日は卓話よろしくお願ひいたします。
清水良彦会員
・4年間大変お世話になりました。大和高田RCの今
後の益々のご発展と皆様のご多幸を心よりお祈り申
し上げます。本当にありがとうございました。
志賀正博会員
・志賀さんご栄転おめでとうございませぬ。お世話にな
りました!! 俵本和実会員
・先日は奉仕フォーラムに多数のご参加ありがとうご
ざいませぬ!! 吉岡さんお疲れさまでした!!
村島靖基会員
・京都の奉仕フォーラムで報告させていただきました。
たくさん応援に来ていただきありがとうございました。

**3月24日の例会報告
会長の時間**

今回の例会は65周年記念例会です。京都では桜
が満開かもしれません。いい季節ですので、例会前
に散歩していただいたらいいかなと思います。

先週の土曜日に、2650地区のロータリー奉仕フォ
ーラムが開催されました。私どもの会員お二人の方
が活躍されました。一人は村島靖基会員です。副委
員長として司会進行をされましたが、すばらしい進
行でした。第2部では、前年度に2650地区で実践
された事業の紹介が3つありました。その中で一番
最初に取り上げられましたのが、当クラブが実施した、
高田川を再発見しようという歴史ウォークで、吉岡弘
修委員長が発表されました。大変すばらしいスピー
チとパワーポイントの内容で、皆さんも我々のホープ
だなどお感じになったのではないかと思います。お
二人様、本当にお疲れさまでした。

ただ一つ残念なことは、発表が終わるとちらほら帰
られ、終わるときには空席が目立っていたことです。
できる限り最後までお願ひいたしたいと思ひます。

幹事報告

- ◎理事会のご案内
3月24日(火) 例会終了後
- ◎創立65周年記念式典と家族例会のご案内
3月29日(日)
- ◎休会のご案内
3月31日(火) 休会
- ◎細則・内規等の変更について
期限までにお申し出がございませぬでしたので、
細則16条により、先だってお知らせいたしました
とおり決定とさせていただきます。
- ◎ロータリーの看板撤去の件
3月15日、ローターアクトの高田川清掃に参加後、
山田会長とともに撤去してまいりました。

ゲスト

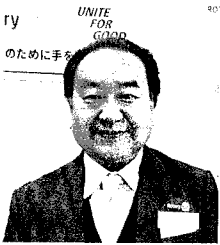
中村鷹治郎様(歌舞伎役者 4代目成駒家 卓話講師)

4つのテスト [言行はこれに照らしてから]

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

- 吉岡弘修会員
- ・29日、家族例会でコール輪音が歌わせていただきます。頑張ります。酒本将稔会員
- ・4月1日結婚記念日、92歳と86歳、65回目の記念日です。ありがたいことです。村島靖一郎会員
- ・結婚記念日祝を頂いて。
- 鈴木勝士会員 吉川利幸会員 松村實昭会員
- ・お誕生日祝を頂いて。 山下精久会員
- ・少しいいことができました。 吉田太郎会員

卓話 「歌舞伎よもやま話」



歌舞伎役者 中村鴈治郎 様
私、歌舞伎というものをなりわいにしております。もしかすると、皆さんの中には、歌舞伎というのはどうもとつきにくい、敷居が高いというイメージを持っていらっしゃる方もあると思うんですね。ですけれども、基本的には歌舞伎といえますの

は、江戸時代に生まれた娯楽でございます。皆さんに喜ばれるものとして生まれ育って来ました。一方、能とか狂言というものは、武士社会で教養として生まれてきたものなんですね。

昔、出雲の国に阿国という巫女がいました。この巫女が神社の外にも出て踊りだしたらしいです。踊りながら、出雲の国から京都を目指すんですね。路上でもって踊りながら目指すのですが、おもしろいと思ってみんな見る。おもしろいものだから、真似る。いわゆるストリートパフォーマンスというやつです。最終的に京都の四条河原に着きます。

阿国は、巫女の格好じゃなくて、奇妙奇天烈な格好をしていたそうですが、余計うけるわけですね。また、それを真似る人間が出てきます。傾く(かぶく)という言葉がございます。傾く(かぶく)というのは、あるものの流行りに対して、傾く(かたむく)、傾向するという意味ですが、これが歌舞伎の語源ではないかと言われております。

皆真似をして、女だけの集団がたくさんできます。客の取り合いになる中で、風俗的によくないことも起こります。そして、時の政府から、やめろというお達しが出るわけです。でも、大衆というのはおもしろいものでして、一度うけたものがありますと、みんなそれを求めるんですね。江戸時代は今の私たちとは考えが違っていて、男色が普通にあった時代ですから、美少年ばかり集めて同じような踊り集団ができました。ところが、これも同じことになり、禁止されます。

女が駄目だ、若衆が駄目だ、残るのは野郎しかいないんです。そこで思いついたのが、男が女をやればいじゃないかということだったわけです。おもしろいことに、実は当時のイギリスでも同じように舞台の上に女性が上がることを禁じられ、男が女を演じることがあったようです。

男が女をやるためにどうしたらいいか。当時一番女らしいと思われているのが遊女ですね。その遊女の真似をすれば、きっと男が女っぽくなれるだろうということになりました。遊女のところに通い詰める人のことを「おやま狂い」と言っていたそうです。そこで、「女形」という字を当てて、歌舞伎の女形のことをおやまと言いついたといひます。

そして、江戸時代に劇場ができますと、だんだ

ん踊りだけじゃなくて芝居を作ってもおもしろいんじゃないかということになっていきます。そこで、歌舞伎は、能や狂言から、おもしろいものがあると、それを取り入れる形になるんです。

例えば勸進帳も能・狂言を元にして歌舞伎に持ってきたものなんです。また、歌舞伎よりも先にあった文楽からもたくさん歌舞伎に取り入れられました。いわゆる歌舞伎三大狂言である仮名手本忠臣蔵、義経千本桜、菅原伝授手習鑑も全部文楽から歌舞伎に移ったものです。

江戸時代は、芝居小屋で役者、作者、鳴り物、みんな抱えて一座としてやっておりました。明治になりますと、そういう一座でやる公演がなくなり、興行会社ができるようになります。そういう中で松竹株式会社は歌舞伎を一手に引き受けるようになります。チラシを見ていただきますと、「制作松竹株式会社」と書いてあります。ですから、実は日本の伝統文化である歌舞伎というのは、営利目的の普通の興行なんです。

戦後になりますと、娯楽を楽しむ余裕が出てまいります。すると、新しいエンターテインメントができるんですね。それが映画です。映画というのは、日本全国どこにいてもスターが見られるんです。そうすると、芝居に人が来なくなるんですね。その煽りを一番食ったのが関西でした。関西での歌舞伎公演というのが一気に減りまして、多くの歌舞伎役者も東京に移ってしまったんですね。

松竹は歌舞伎に人が来なかったときにどうしたかといいますと、映画もやって、恐らく歌舞伎の赤字を補填していたときもあったと思います。それでも歌舞伎を手放さなかったのも、今も脈々と続いてきたと言えます。

歌舞伎はもともと相撲のように棧敷でお酒を飲んで、弁当を食べて見るものでした。甲子園の阪神戦みたいなものです。みんな声も出るわ、やじも出るわ。今のような「成駒家!」「待ってました!」とかいいことばかりじゃないです。「まずいぞ、引っ込め!」みたいなことも多分あったと思います。そんな状態でもってやっていた、ざわざわしていた状態の娯楽です。そういうのがもともとの歌舞伎だったはずなんです。

歌舞伎にはもう優に何千本という芝居がございます。それぐらい新しいものを作っていくかといふとみんなにきかれるだろうということなんです。古典も初めてやったときには新作です。それがいかに続くか、再演されるかということがいい芝居の条件かもしれません。

私の父と祖父がやった曾根崎心中も、歌舞伎としては昭和28年にできたものなんです。もともとは近松門左衛門が文楽のために書いたものでした。来月4月10日にシネマ歌舞伎で曾根崎心中をやります。映画館で見られるようになるんです。そうしますと、映画というのは50年先でも100年先でも残るんです。でも、芝居というのは今見ていただいたものしか残らないんです。本当に一期一会のものです。私がやったものは私のもので、代が変わって息子になっても、私の曾根崎心中というのは私のものしかないんです。そんな切磋琢磨をしながら、皆さんにとにかく喜んでいただくということが続いているのが歌舞伎なんですので。どうぞこの先も歌舞伎を愛してくださいませ。

出席報告	会員 総数	出席 義務 会員数	義務 会員 出席数	義務 会員 欠席数	義務 会員 MU	出席 免除 会員数	免除 会員 出席数	免除 会員 MU	出席率
3月24日	87	57	46	11	0	30	24	0	86.42%
3月10日	87	57	52	5	0	30	20	0	93.50%
3月3日	87	57	48	9	3	30	22	0	92.40%

※食品ロスの削減に努めましょう。(3月10日の弁当残数は1個)